



ハイアベイラビリティ オプション

- [ハイアベイラビリティ オプション \(1 ページ\)](#)
- [ロード バランシング \(2 ページ\)](#)

ハイアベイラビリティ オプション

ロードバランシング、およびフェールオーバーは、それぞれ機能と要件が異なるハイアベイラビリティ機能です。状況によっては、複数の機能を導入環境で使用することがあります。以降では、これらの機能について説明します。フェールオーバーの詳細については、『[ASA General Operations ASDM Configuration Guide](#)』の適切なリリースを参照してください。ロードバランシングの詳細は以下に記載されています。

ロードバランシング

ロードバランシングは、仮想クラスタ内のデバイス間でリモートアクセス VPN トラフィックを均一に分散するメカニズムです。この機能は、スループットまたはその他の要因を考慮しない単純なトラフィックの分散に基づいています。ロードバランシングクラスタは2つ以上のデバイスで構成され、そのうちの1つが仮想マスターとなり、それ以外のデバイスはバックアップとなります。これらのデバイスは、完全に同じタイプである必要はなく、同じソフトウェアバージョンやコンフィギュレーションを使用する必要もありません。

仮想クラスタ内のすべてのアクティブなデバイスがセッションの負荷を伝送します。ロードバランシングにより、トラフィックはクラスタ内の最も負荷の少ないデバイスに転送され、負荷はすべてのデバイス間に分散されます。これにより、システムリソースが効率的に使用され、パフォーマンスが向上し、ハイアベイラビリティが実現されます。

フェールオーバー

フェールオーバー コンフィギュレーションでは、2台の同一のASAが専用のフェールオーバーリンクで接続され、必要に応じて、ステートフルフェールオーバーリンク（任意）でも接続されます。アクティブインターフェイスおよび装置のヘルスがモニタされて、所定のフェールオーバー条件に一致しているかどうか判断されます。これらの条件に一致した場合は、フェー

ルオーバーが行われます。フェールオーバーは、VPN とファイアウォールの両方のコンフィギュレーションをサポートします。

ASA は、アクティブ/アクティブフェールオーバーとアクティブ/スタンバイフェールオーバーの2つのフェールオーバー設定をサポートしています。

アクティブ/アクティブフェールオーバーでは、両方の装置がネットワークトラフィックを渡すことができます。これは、同じ結果になる可能性があります、真のロードバランシングではありません。フェールオーバーが行われると、残りのアクティブ装置が、設定されたパラメータに基づいて結合されたトラフィックの通過を引き継ぎます。したがって、アクティブ/アクティブフェールオーバーを構成する場合は、両方の装置の合計トラフィックが各装置の容量以内になるようにする必要があります。

アクティブ/スタンバイフェールオーバーでは、1つの装置だけがトラフィックを通過させることができ、もう1つの装置はスタンバイ状態で待機して、トラフィックを通過させません。アクティブ/スタンバイフェールオーバーでは、2番目の ASA を使用して、障害の発生した装置の機能を引き継ぎます。アクティブ装置が故障すると、スタンバイ状態に変わり、そしてスタンバイ装置がアクティブ状態に変わります。アクティブになる装置が、障害の発生した装置の IP アドレス（または、トランスペアレントファイアウォールの場合は管理 IP アドレス）および MAC アドレスを引き継いで、トラフィックの転送を開始します。現在スタンバイになっている装置が、アクティブ装置のスタンバイの IP アドレスを引き継ぎます。アクティブ装置で障害が発生すると、スタンバイ装置は、クライアント VPN トンネルを中断することなく引き継ぎます。

ロードバランシング

ロードバランシングの概要

リモートクライアントコンフィギュレーションで、複数の ASA を同じネットワークに接続してリモートセッションを処理している場合、これらのデバイスでセッション負荷を分担するように設定できます。この機能は、ロードバランシングと呼ばれます。ロードバランシングでは、最も負荷の低いデバイスにセッショントラフィックが送信されます。このため、すべてのデバイス間で負荷が分散されます。これにより、システムリソースを効率的に利用でき、パフォーマンスと可用性が向上します。

ロードバランシングを実装するには、同じプライベート LAN 間ネットワーク上の複数のデバイスを、論理的に仮想クラスタとしてグループ化します。

セッションの負荷は、仮想クラスタ内のすべてのデバイスに分散されます。仮想クラスタ内の1つのデバイスである仮想クラスタマスターは、着信接続要求をバックアップデバイスと呼ばれる他のデバイスに転送します。仮想クラスタマスターは、クラスタ内のすべてのデバイスをモニタし、各デバイスの負荷を追跡して、その負荷に基づいてセッションの負荷を分散します。仮想クラスタマスターの役割は、1つの物理デバイスに結び付けられるものではなく、デバイス間でシフトできます。たとえば、現在の仮想クラスタマスターで障害が発生すると、クラスタ内のバックアップデバイスの1つがその役割を引き継いで、すぐに新しい仮想クラスタマスターになります。

仮想クラスタは、外部のクライアントには1つの仮想クラスタ IP アドレスとして表示されず。この IP アドレスは、特定の物理デバイスに結び付けられていません。現在の仮想クラスタ マスターに属しているため、仮想のアドレスです。接続の確立を試みている VPN クライアントは、最初にこの仮想クラスタ IP アドレスに接続します。仮想クラスタ マスターは、クラスタ内で使用できるホストのうち、最も負荷の低いホストのパブリック IP アドレスをクライアントに返します。2 回目のトランザクションで、クライアントは直接そのホストに接続します（この動作はユーザには透過的です）。仮想クラスタ マスターは、このようにしてリソース全体に均等かつ効率的にトラフィックを転送します。

クラスタ内のマシンで障害が発生すると、終了されたセッションはただちに仮想クラスタ IP アドレスに再接続できます。次に、仮想クラスタ マスターは、クラスタ内の別のアクティブデバイスにこれらの接続を転送します。仮想クラスタ マスター自体に障害が発生した場合、クラスタ内のバックアップ デバイスが、ただちに新しい仮想セッション マスターを自動的に引き継ぎます。クラスタ内の複数のデバイスで障害が発生しても、クラスタ内のデバイスが1つ稼働していて使用可能である限り、ユーザはクラスタに引き続き接続できます。

VPN ロードバランシングのアルゴリズム

マスター デバイスには、バックアップ クラスタ メンバーを IP アドレスの昇順にソートしたリストが保持されます。各バックアップ クラスタ メンバーの負荷は、整数の割合（アクティブセッション数）として計算されます。AnyConnect の非アクティブセッションは、ロードバランシングの SSL VPN 負荷に数えられません。マスター デバイスは、IPsec トンネルと SSL VPN トンネルを負荷が最も低いデバイスに、その他のデバイスより負荷が 1% 高くなるまでリダイレクトします。すべてのバックアップ クラスタ メンバーの負荷がマスターより 1% 高くなると、マスター デバイスは自分自身に対してリダイレクトします。

たとえば、1つのマスターと2つのバックアップ クラスタ メンバーがある場合に、次のサイクルが当てはまります。



(注) すべてのノードは 0% から始まり、すべての割合は四捨五入されます。

1. マスター デバイスは、すべてのメンバーにマスターよりも 1% 高い負荷がある場合に、接続を使用します。
2. マスターが接続を使用しない場合、セッションは、最もロード率が低いバックアップ デバイスが処理します。
3. すべてのメンバーに同じ割合の負荷がかかっている場合、セッション数が最も少ないバックアップ デバイスがセッションを取得します。
4. すべてのメンバーに同じ割合の負荷と同じ数のセッションがある場合、IP アドレス数が最も少ないデバイスがセッションを取得します。

VPN ロードバランシング クラスタ コンフィギュレーション

ロードバランシング クラスタは、同じリリースまたは混在リリースの ASA から構成できます。ただし、次の制約があります。

- 同じリリースの 2 台の ASA から構成されるロードバランシング クラスタは、IPsec、AnyConnect、およびクライアントレス SSL VPN クライアントとクライアントレスセッションの組み合わせに対してロードバランシングを実行できます。
- 混在リリースの ASA または同じリリースの ASA を含むロードバランシング クラスタは、IPsec セッションのみをサポートできます。ただし、このようなコンフィギュレーションでは、ASA はそれぞれの IPsec のキャパシティに完全に達しない可能性があります。

Release 7.1(1) 以降、IPsec セッションと SSL VPN セッションは、クラスタ内の各デバイスが伝送する負荷を決定するときに均等にカウントまたは重み付けします。これは、ASA リリース 7.0(x) ソフトウェア用のロードバランシングの計算からの逸脱を意味しています。つまり、このプラットフォームでは、いずれも一部のハードウェアプラットフォームにおいて、IPsec セッションの負荷とは異なる SSL VPN セッションの負荷を計算する重み付けアルゴリズムを使用しています。

クラスタの仮想マスターは、クラスタのメンバにセッション要求を割り当てます。ASA は、すべてのセッション、SSL VPN または IPsec を同等と見なし、それらを同等に割り当てます。許可する IPsec セッションと SSL VPN セッションの数は、コンフィギュレーションおよびライセンスで許可されている最大数まで設定できます。

ロードバランシング クラスタで最大 10 のノードはテスト済みです。これよりクラスタが多くても機能しますが、そのようなトポロジは正式にはサポートされていません。

一般的な混在クラスタ シナリオの例

混在コンフィギュレーション、つまりロードバランシング クラスタにさまざまな ASA ソフトウェア リリースを実行しているデバイスが含まれている場合、最初のクラスタ マスターで障害が発生し、別のデバイスがマスターを引き継ぐときに、重み付けアルゴリズムの違いが問題になります。

次のシナリオは、ASA リリース 7.1(1) ソフトウェアおよび ASA リリース 7.0(x) ソフトウェアを実行しているさまざまな ASA で構成されているクラスタでの VPN ロードバランシングの使用を示しています。

シナリオ 1 : SSL VPN 接続のない混在クラスタ

このシナリオでは、クラスタはさまざまな ASA で構成されています。ASA クラスタ ピアには、ASA Release 7.0(x) を実行しているものも、Release 7.1(1) を実行しているものもあります。7.1(1) 以前のピアには、SSL VPN 接続はなく、7.1(1) クラスタ ピアには、SSL VPN の基本ライセンスのみあり、2つの SSL VPN セッションは許可されますが、SSL VPN 接続はありません。この場合、すべての接続は IPsec であり、ロードバランシングは良好に機能します。

シナリオ 2 : SSL VPN 接続を処理する混在クラスタ

たとえば、ASA Release 7.1(1) ソフトウェアを実行している ASA が最初のクラスタ マスターで、そのデバイスに障害が発生したとします。クラスタ内の別のデバイスが自動的にマスターを引き継ぎ、そのクラスタ内のプロセッサの負荷を決定するためにそのデバイス独自のロード バランシング アルゴリズムを適用します。ASA Release 7.1(1) ソフトウェアを実行しているクラスタ マスターは、そのソフトウェアが提供する方法以外では、セッションの負荷を重み付けすることはできません。そのため、IPsec および SSL VPN セッションの負荷の組み合わせを、以前のバージョンを実行する ASA デバイスに適切に割り当てることができません。次のシナリオは、このジレンマを示しています。

このシナリオは、クラスタがさまざまな ASA で構成されているという点において、前述のシナリオと似ています。ASA クラスタ ピアには、ASA Release 7.0(x) を実行しているものも、Release 7.1(1) を実行しているものもあります。ただし、この場合は、クラスタは SSL VPN 接続だけでなく IPsec 接続も処理されます。

ASA Release 7.1(1) 以前のソフトウェアを実行しているデバイスがクラスタ マスターである場合、マスターは実質的に Release 7.1(1) 以前のプロトコルとロジックを適用します。つまり、セッションはそのセッション制限を超えているロード バランシング ピアに転送される場合もあります。その場合、ユーザはアクセスを拒否されます。

クラスタ マスターが ASA Release 7.0(x) ソフトウェアを実行しているデバイスである場合、古いセッション重み付けアルゴリズムは、クラスタ内の 7.1(1) 以前のピアにのみ適用されます。この場合、アクセスが拒否されることはありません。これは、7.1(1) 以前のピアは、セッション重み付けアルゴリズムを使用するため、負荷がより軽くなっています。

ただし、7.1(1) ピアが常にクラスタ マスターであることは保証できないため、問題が発生します。クラスタ マスターで障害が発生すると、別のピアがマスターの役割を引き継ぎます。新しいマスターは、適格なピアのいずれかになります。結果を予測することは不可能であるため、このタイプのクラスタを構成しないことを推奨します。

ロード バランシング についての FAQ

- [マルチ コンテキスト モード](#)
- [IP アドレス プールの枯渇](#)
- [固有の IP アドレス プール](#)
- [同じデバイスでのロード バランシング とフェールオーバーの使用](#)
- [複数のインターフェイスでのロード バランシング](#)
- [ロード バランシング クラスタの最大同時セッション](#)

マルチ コンテキスト モード

- Q. ロードバランシングはマルチコンテキスト モードでサポートされていますか。
- A. ロードバランシングもステートフル フェールオーバーもマルチコンテキスト モードではサポートされていません。

IP アドレス プールの枯渇

- Q. ASA は、IP アドレス プールの枯渇をその VPN ロードバランシング方式の一部と見なしますか。
- A. いいえ。リモートアクセス VPN セッションが、IP アドレス プールが枯渇したデバイスに転送された場合、セッションは確立されません。ロードバランシング アルゴリズムは、負荷に基づき、各バックアップ クラスタ メンバーが提供する整数の割合（アクティブ セッション数および最大セッション数）として計算されます。

固有の IP アドレス プール

- Q. VPN ロードバランシングを実装するには、異なる ASA 上の AnyConnect クライアントまたは IPsec クライアントの IP アドレス プールを固有にする必要がありますか。
- A. はい。IP アドレス プールはデバイスごとに固有にする必要があります。

同じデバイスでのロードバランシングとフェールオーバーの使用

- Q. 単一のデバイスで、ロードバランシングとフェールオーバーの両方を使用できますか。
- A. はい。この設定では、クライアントはクラスタの IP アドレスに接続し、クラスタ内で最も負荷の少ない ASA にリダイレクトされます。そのデバイスで障害が発生すると、スタンバイ装置がすぐに引き継ぎ、VPN トンネルにも影響を及ぼしません。

複数のインターフェイスでのロードバランシング

- Q. 複数のインターフェイスで SSL VPN をイネーブルにする場合、両方のインターフェイスにロードバランシングを実装することはできますか。
- A. パブリックインターフェイスとしてクラスタに参加するインターフェイスは1つしか定義できません。これは、CPU 負荷のバランスをとることを目的としています。複数のインターフェイスは、同じ CPU に集中するため、複数のインターフェイスにおけるロードバランシングの概念には意味がありません。

ロードバランシング クラスタの最大同時セッション

- Q. それぞれが 100 ユーザの SSL VPN ライセンスを持つ 2 つの ASA 5525-X が構成されているとします。この場合、ロードバランシング クラスタで許可されるユーザの最大合計数は、200 同時セッションでしょうか。または 100 同時セッションだけでしょうか。さらに

100 ユーザ ライセンスを持つ 3 台目のデバイスを追加した場合、300 の同時セッションをサポートできますか。

- A. VPN ロード バランシングを使用すると、すべてのデバイスがアクティブになるため、クラスターでサポートできる最大セッション数は、クラスター内の各デバイスのセッション数の合計になります。この例の場合は、300 になります。

ロード バランシングのライセンス

VPN ロード バランシングを使用するには、Security Plus ライセンスを備えた ASA モデル 5512-X、または ASA モデル 5515-X 以降が必要です。VPN ロード バランシングには、アクティブな 3DES または AES ライセンスが必要です。セキュリティ アプライアンスは、ロード バランシングをイネーブルにする前に、この暗号ライセンスが存在するかどうかをチェックします。アクティブな 3DES または AES のライセンスが検出されない場合、セキュリティ アプライアンスはロード バランシングをイネーブルにせず、ライセンスでこの使用方法が許可されていない場合には、ロード バランシング システムによる 3DES の内部コンフィギュレーションも抑止します。

VPN ロード バランシングに関するガイドラインと制限事項

[ロード バランシングの前提条件 \(9 ページ\)](#) も参照してください。

適格なプラットフォーム

ロード バランシング クラスターには、ASA モデルの ASA 5512-X (Security Plus ライセンスあり) および Model 5515-X 以降を含めることができます。混合コンフィギュレーションは可能ですが、通常は、同種クラスターにする方が容易に管理できます。

適格なクライアント

ロード バランシングは、次のクライアントで開始されるリモートセッションでのみ有効です。

- Cisco AnyConnect Secure Mobility Client (リリース 3.0 以降)
- Cisco ASA 5505 セキュリティ アプライアンス (Easy VPN クライアントとして動作する場合)
- IKE リダイレクトをサポートする IOS EZVPN クライアント デバイス (IOS 831/871)
- クライアントレス SSL VPN (クライアントではない)

クライアントの考慮事項

ロード バランシングは、IPsec クライアント セッションと SSL VPN クライアント および クライアントレス セッションで機能します。LAN-to-LAN を含めて、他のすべての VPN 接続タイプ (L2TP、PPTP、L2TP/IPsec) は、ロード バランシングがイネーブルになっている ASA に接続できますが、ロード バランシングには参加できません。

複数の ASA ノードがロード バランシングのためにクラスタ化され、AnyConnect クライアント 接続にグループ URL の使用が必要な場合、個々の ASA ノードは以下を行う必要があります。

- 各リモート アクセス接続プロファイルに、各ロード バランシング仮想クラスタ アドレス (IPv4 および IPv6) のグループ URL を設定します。
- このノードの VPN ロード バランシング パブリック アドレスに対してグループ URL を設定します。

コンテキスト モード

マルチ コンテキスト モードでは、VPN ロード バランシングはサポートされません。

証明書の確認

AnyConnect でロード バランシングの証明書確認を実行し、IP アドレスによって接続がリダイレクトされている場合、クライアントにより、この IP アドレスを通してその名前チェックがすべて実行されます。リダイレクト IP アドレスが証明書の一般名、つまり **subject alt name** に一覧表示されていることを確認する必要があります。IP アドレスがこれらのフィールドに存在しない場合、証明書は非信頼と見なされます。

RFC 2818 で定義されたガイドラインに従って、**subject alt name** が証明書に組み込まれている場合、名前チェックにのみ **subject alt name** を使用し、一般名は無視します。証明書を提示しているサーバの IP アドレスが証明書の **subject alt name** で定義されていることを確認します。

スタンドアロン ASA の場合、IP アドレスはその ASA の IP です。クラスタリング環境では、証明書の設定により異なります。クラスタが1つの証明書を使用している場合、証明書は、クラスタ IP アドレスおよびクラスタ FQDN の SAN 拡張機能を保持するほか、各 ASA の IP および FQDN を備えたサブジェクト代替名の拡張機能を含む必要があります。クラスタが複数の証明書を使用している場合、各 ASA の証明書は、クラスタ IP の SAN 拡張機能、クラスタ FQDN、個々の ASA の IP アドレスおよび FQDN を保持する必要があります。

地理的ロード バランシング

ロード バランシング環境において DNS 解決が一定の間隔で変化する場合は、存続可能時間 (TTL) の値をどのように設定するかを慎重に検討する必要があります。DNS ロード バランシング設定が AnyConnect との組み合わせで適切に機能するには、マッピングを処理する ASA の名前が、その ASA が選択された時点からトンネルが完全に確立されるまでの間、同じである必要があります。所定の時間が経過してもクレデンシャルが入力されない場合は、ルックアップが再び開始して別の IP アドレスが解決済みアドレスとなることがあります。DNS のマッピング先が別の ASA に変更された後でクレデンシャルが入力された場合は、VPN トンネルの確立に失敗します。

VPN の地理的ロード バランシングでは、Cisco Global Site Selector (GSS) が使用されることがあります。GSS では DNS がロード バランシングに使用され、DNS 解決の存続可能時間 (TTL) のデフォルト値は 20 秒となっています。GSS での TTL の値を大きくすると、接続失敗の確率を大幅に引き下げることができます。値を大きくすると、ユーザがクレデンシャルを入力してトンネルを確立するときの認証フェーズに十分な時間を取ることができます。

クレデンシャル入力のための時間を増やすには、「起動時接続」をディセーブルにすることも検討してください。

ロード バランシングの設定

リモートクライアント コンフィギュレーションで、複数の ASA を同じネットワークに接続してリモートセッションを処理している場合、これらのデバイスでセッション負荷を分担するように設定できます。この機能はロードバランシングと呼ばれ、最も負荷の低いデバイスにセッショントラフィックが送信されます。このため、すべてのデバイス間で負荷が分散されます。ロードバランシングにより、システム リソースが効率的に使用され、パフォーマンスとシステム アベイラビリティが向上します。

ロードバランシングを使用するには、クラスタ内の各デバイスで以下を実行します。

- 共通の VPN ロードバランシング クラスタ属性を設定することによってロードバランシング クラスタを設定します。これには、仮想クラスタ IP アドレス、UDP ポート（必要に応じて）、およびクラスタの IPsec 共有秘密が含まれます。クラスタに参加するすべてのデバイスには、クラスタ内のデバイス プライオリティを除き、同一のクラスタ コンフィギュレーションを設定する必要があります。
- デバイスでロードバランシングを有効にし、パブリック アドレスとプライベート アドレスなどのデバイス固有のプロパティを定義することにより、参加するデバイスを設定します。これらの値はデバイスによって異なります。

ロードバランシングの前提条件

[VPN ロードバランシングに関するガイドラインと制限事項（7 ページ）](#) も参照してください。

- ロードバランシングはデフォルトではディセーブルになっています。ロードバランシングは明示的にイネーブルにする必要があります。
- 最初にパブリック（外部）およびプライベート（内部）インターフェイスを設定しておく必要があります。この項では、これ以降の参照に外部および内部の名前を使用します。
これを行うには、[Configuration] > [Device Setup] > [Interface Settings] > [Interfaces] の順に移動します。
- 仮想クラスタ IP アドレスが参照するインターフェイスを事前に設定する必要があります。共通仮想クラスタ IP アドレス、UDP ポート（必要に応じて）、およびクラスタの IPsec 共有秘密を確立します。
- クラスタに参加するすべてのデバイスは、同じクラスタ固有の値（IP アドレス、暗号化設定、暗号キー、およびポート）を共有する必要があります。
- 暗号化を使用する場合は、インターフェイス内にロードバランシングを設定する必要があります。そのインターフェイスがロードバランシング内部インターフェイスでイネーブルになっていない場合、クラスタの暗号化を設定しようとするとエラーメッセージが表示されます。

- アクティブ/アクティブ ステートフル フェールオーバー、または VPN ロードバランシングを使用している場合、ローカル CA 機能はサポートされません。ローカル CA を別の CA の下位に置くことはできません。ローカル CA はルート CA にしかありません。

High Availability and Scalability Wizard を使用した VPN ロード バランシングの設定

手順

- ステップ 1** [Wizards] > [High Availability and Scalability] を選択します。
- ステップ 2** [Configuration Type] 画面で、[Configure VPN Cluster Load Balancing] をクリックしてから、[Next] をクリックします。
- ステップ 3** 仮想クラスタ全体を表す 1 つの IP アドレスを選択します。仮想クラスタ内のすべての ASA が共有するパブリック サブネットのアドレス範囲内で、IP アドレスを指定します。
- ステップ 4** このデバイスが参加する仮想クラスタの UDP ポートを指定します。デフォルト値は 9023 です。別のアプリケーションでこのポートが使用されている場合は、ロードバランシングに使用する UDP の宛先ポート番号を入力します。
- ステップ 5** IPsec 暗号化をイネーブルにして、デバイス間で通信されるすべてのロードバランシング情報が暗号化されるようにするには、[Enable IPsec Encryption] チェックボックスをオンにします。

共有秘密を指定し、確認する必要があります。仮想クラスタ内の ASA は、IPsec を使用して LAN-to-LAN トンネル経由で通信します。IPsec 暗号化をディセーブルにするには、[Enable IPsec Encryption] チェックボックスをオフにします。

(注) 暗号化を使用する場合は、インターフェイス内にロードバランシングを設定する必要があります。そのインターフェイスがロードバランシング内部インターフェイスでイネーブルになっていない場合、クラスタの暗号化を設定しようとするとエラーメッセージが表示されます。
- ステップ 6** IPsec 暗号化をイネーブルにするときに、IPsec ピア間の共有秘密を指定します。入力した値は、連続するアスタリスク文字として表示されます。
- ステップ 7** クラスタ内のこのデバイスに割り当てるプライオリティを指定します。値の範囲は 1 ~ 10 です。プライオリティは、起動時または既存のマスターで障害が発生したときに、このデバイスが仮想クラスタマスターになる可能性を表します。プライオリティを高く設定すると（たとえば 10）、このデバイスが仮想クラスタ マスターになる可能性が高くなります。

(注) 仮想クラスタ内のデバイスを異なるタイミングで起動した場合、最初に起動したデバイスが、仮想クラスタマスターの役割を果たすと想定されます。どの仮想クラスタにもマスターが必要であるため、起動したときに仮想クラスタ内の各デバイスはチェックを行い、クラスタに仮想マスターがあることを確認します。仮想マスターがない場合、そのデバイスがマスターの役割を果たします。後で起動し、クラスタに追加されたデバイスは、セカンダリデバイスになります。仮想クラスタ内のすべてのデバイスが同時に起動されたときは、最高の優先順位が設定されたデバイスが仮想クラスタマスターになります。仮想クラスタ内の複数のデバイスが同時に起動され、いずれも最高の優先順位が設定されている場合、最も低い IP アドレスを持つデバイスが仮想クラスタマスターになります。

- ステップ 8** このデバイスのパブリック インターフェイスの名前または IP アドレスを指定します。
- ステップ 9** このデバイスのプライベート インターフェイスの名前または IP アドレスを指定します。
- ステップ 10** VPN クライアント接続をクラスタ デバイスにリダイレクトするとき、外部 IP アドレスの代わりにクラスタ デバイスのホスト名とドメイン名を使用して、VPN クラスタ マスターによって完全修飾ドメイン名が送信されるようにするには、[Send FQDN to client instead of an IP address when redirecting] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 11** [Next] をクリックします。[Summary] 画面でコンフィギュレーションを確認します。
- ステップ 12** [Finish] をクリックします。

VPN クラスタ ロード バランシングの設定が ASA に送信されます。

次のタスク

複数の ASA ノードがロード バランシングのためにクラスタ化され、AnyConnect クライアント接続にグループ URL の使用が必要な場合、個々の ASA ノードは以下を行う必要があります。

- 各リモート アクセス接続プロファイルに、各ロード バランシング仮想クラスタ アドレス (IPv4 および IPv6) のグループ URL を設定します。
- このノードの VPN ロード バランシング パブリック アドレスに対してグループ URL を設定します。

Group URL は、[Configuration] > [Remote Access VPN] > [Network (Client) Access] > [AnyConnect Connection Profiles] > *connection profile name* > [Add or Edit] > [Advanced] > [Group Alias / Group URL] ペインで設定します。

VPN ロード バランシングの設定 (ウィザードを使用しない場合)

手順

- ステップ 1** [Configuration] > [Remote Access VPN] > [Load Balancing] を選択します。

ステップ 2 [Participate in Load Balancing] をオンにして、この ASA がロードバランシング クラスタに参加していることを指定します。

ロードバランシングに参加するすべての ASA に対してこの方法でロードバランシングをイネーブルにする必要があります。

ステップ 3 [VPN Cluster Configuration] エリアで、次のフィールドを設定します。これらの値は、仮想クラスタ全体で同じである必要があります。すべてのクラスタに同一のクラスタ設定を行う必要があります。

- [Cluster IPv4 Address] : IPv4 仮想クラスタ全体を表す単一の IPv4 アドレスを指定します。仮想クラスタ内のすべての ASA が共有するパブリックサブネットのアドレス範囲内から、IP アドレスを選択します。
 - [UDP Port] : このデバイスが参加する仮想クラスタの UDP ポートを指定します。デフォルト値は 9023 です。別のアプリケーションでこのポートが使用されている場合は、ロードバランシングに使用する UDP の宛先ポート番号を入力します。
- [Cluster IPv6 Address] : IPv6 仮想クラスタ全体を示す単一の IPv6 アドレスを指定します。仮想クラスタ内のすべての ASA が共有するパブリックサブネットのアドレス範囲内から、IP アドレスを選択します。IPv6 アドレスを使用したクライアントは、ASA クラスタの公開されている IPv6 アドレス経由または GSS サーバ経由で AnyConnect 接続を行うことができます。同様に、IPv6 アドレスを使用したクライアントは、ASA クラスタの公開されている IPv4 アドレス経由または GSS サーバ経由で AnyConnect VPN 接続を行うことができます。どちらのタイプの接続も ASA クラスタ内でロードバランシングできます。

(注) 少なくとも 1 台の DNS サーバに DNS サーバグループが設定されており、ASA インターフェイスの 1 つで DNS ルックアップがイネーブルにされている場合、[Cluster IPv4 Address] および [Cluster IPv6 Address] フィールドでは、仮想クラスタの完全修飾ドメイン名も指定できます。
- [Enable IPsec Encryption] : IPsec 暗号化をイネーブルまたはディセーブルにします。このボックスをオンにして、共有秘密情報を指定して確認します。仮想クラスタ内の ASA は、IPsec を使用して LAN-to-LAN トンネル経由で通信します。デバイス間で通信されるすべてのロードバランシング情報が暗号化されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
- [IPsec Shared Secret] : IPsec 暗号化がイネーブルになっているときに、IPsec ピア間の共有秘密情報を指定します。ボックスに入力する値は、連続するアスタリスク文字として表示されます。
- [Verify Secret] : 共有秘密情報を再入力します。[IPsec Shared Secret] ボックスに入力された共有秘密情報の値を確認します。

ステップ 4 特定の ASA の [VPN Server Configuration] エリアのフィールドを設定します。

- [Public Interface] : このデバイスのパブリック インターフェイスの名前または IP アドレスを指定します。

- **[Private Interface]** : このデバイスのプライベート インターフェイスの名前または IP アドレスを指定します。
- **[Priority]** : クラスタ内でこのデバイスに割り当てるプライオリティを指定します。値の範囲は 1 ~ 10 です。プライオリティは、起動時または既存のマスターで障害が発生したときに、このデバイスが仮想クラスタマスターになる可能性を表します。優先順位を高く設定すれば (10 など)、このデバイスが仮想クラスタ マスターになる可能性が高くなります。

(注) 仮想クラスタ内のデバイスを異なるタイミングで起動した場合、最初に起動したデバイスが、仮想クラスタマスターの役割を果たすと想定されます。仮想クラスタにはマスターが必要であるため、起動したときに仮想クラスタ内の各デバイスはチェックを行い、クラスタに仮想マスターがあることを確認します。仮想マスターがない場合、そのデバイスがマスターの役割を果たします。後で起動し、クラスタに追加されたデバイスは、バックアップデバイスになります。仮想クラスタ内のすべてのデバイスが同時に起動されたときは、最高の優先順位が設定されたデバイスが仮想クラスタマスターになります。仮想クラスタ内の複数のデバイスが同時に起動され、いずれも最高の優先順位が設定されている場合、最も低い IP アドレスを持つデバイスが仮想クラスタ マスターになります。

- **[NAT Assigned IPv4 Address]** : このデバイスの IP アドレスを NAT によって変換した結果の IP アドレスを指定します。NAT を使用しない場合 (またはデバイスが NAT を使用するファイアウォールの背後にはない場合) は、このフィールドを空白のままにしてください。
- **[NAT Assigned IPv6 Address]** : このデバイスの IP アドレスを NAT によって変換した後の IP アドレスを指定します。NAT を使用しない場合 (またはデバイスが NAT を使用するファイアウォールの背後にはない場合) は、このフィールドを空白のままにしてください。
- **[Send FQDN to client]** : このチェックボックスをオンにすると、VPN クラスタ マスターが VPN クライアント接続をクラスタ デバイスにリダイレクトするときに、外部 IP アドレスの代わりにクラスタデバイスのホスト名とドメイン名を使用して完全修飾ドメイン名が送信されるようになります。

デフォルトで、ASA はロードバランシング リダイレクションの IP アドレスだけをクライアントに送信します。DNS 名に基づく証明書が使用されている場合、その証明書はバックアップ デバイスにリダイレクトされたときに無効になります。

VPN クライアント接続を別のクラスタ デバイス (クラスタ内の別の ASA) にリダイレクトするときに、この ASA は VPN クラスタ マスターとして、DNS 逆ルックアップを使用し、そのクラスタデバイスの (外部 IP アドレスではなく) 完全修飾ドメイン名 (FQDN) を送信できます。

クラスタ内のロードバランシング デバイスのすべての外部および内部ネットワーク インターフェイスは、同じ IP ネットワーク上に存在する必要があります。

(注) IPv6 を使用し、FQDNS をクライアントに送信するときに、これらの名前は DNS を通じて ASA で解決できる必要があります。

詳細については、「[FQDN を使用したクライアントレス SSL VPN ロード バランシングのイネーブル化 \(14 ページ\)](#)」を参照してください。

次のタスク

複数の ASA ノードがロード バランシングのためにクラスタ化され、AnyConnect クライアント 接続にグループ URL の使用が必要な場合、個々の ASA ノードは以下を行う必要があります。

- 各リモート アクセス接続プロファイルに、各ロード バランシング仮想クラスタ アドレス (IPv4 および IPv6) のグループ URL を設定します。
- このノードの VPN ロード バランシング パブリック アドレスに対してグループ URL を設定します。

Group URL は、[Configuration] > [Remote Access VPN] > [Network (Client) Access] > [AnyConnect Connection Profiles] > *connection profile name* > [Add or Edit] > [Advanced] > [Group Alias / Group URL] ペインで設定します。

FQDN を使用したクライアントレス SSL VPN ロード バランシングのイネーブル化

手順

-
- ステップ 1** [Send FQDN to client instead of an IP address when redirecting] チェックボックスをオンにして、ロード バランシングでの FQDN の使用をイネーブルにします。
 - ステップ 2** DNS サーバに、各 ASA 外部インターフェイスのエントリを追加します (エントリが存在しない場合)。それぞれの ASA 外部 IP アドレスに、ルックアップ用にそのアドレスに関連付けられた DNS エントリが設定されている必要があります。これらの DNS エントリに対しては、逆ルックアップもイネーブルにする必要があります。
 - ステップ 3** [Configuration] > [Device Management] > [DNS] > [DNS Client] ダイアログボックスで、DNS サーバへのルートを持つインターフェイスについて、ASA での DNS ルックアップをイネーブルにします。
 - ステップ 4** ASA で DNS サーバの IP アドレスを定義します。これを行うには、このダイアログボックスで [Add] をクリックします。[Add DNS Server Group] ダイアログボックスが開きます。追加する DNS サーバの IPv4 または IPv6 アドレスを入力します。たとえば、192.168.1.1 または 2001:DB8:2000::1 です。
 - ステップ 5** [OK] および [Apply] をクリックします。
-